

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2014年6月NO.35

# SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

8

## ドゥソドゥソ

「ドゥソドゥソ(Duso Duso)」は、フィリピンの言語のひとつのワライ語で「押し押し」という意味です。ココナツの枝を舟の形に削り、舗装された道路で木の棒で押して競争したり、川で浮かばせて遊びます。

「あ!後ろから追いかけてくるよ!」

写真:センター42(東サマール州ボロンガン)

**ChildFund**  
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集  
地域の自立とは?

3つのセンターへの支援が終わります。



## 理事長交代のお知らせ

チャイルド・ファンド・ジャパンの前身であるCCWA国際精神里親運動部時代の1989年以来理事長を務めてまいりました深町正信が、5月末日で退任し、6月1日、高田和彦が理事長に就任いたします。今後は高田理事長のリーダーシップのもと事業の充実に励んでまいります。引き続きご理解とご協力くださいますようお願い申し上げます。

### 就任のご挨拶

## 「愛と奉仕の連鎖へ」

皆様には、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンの働きに温かいご理解と大きなご協力をくださり心からお礼申し上げます。この度、深町正信先生の後を継ぎ、6月1日をもって理事長に就任させていただくことになりました。ご支援くださる多くの皆様からお寄せいただくご信頼と、深町先生はじめ役職員が築き上げてきた働きを思うとき、その大役に身の引き締まる思いですが、法人の使命を全うすべく、力を注いでまいり所存でございます。

本年1月、私はフィリピンを視察する機会を得ました。訪れたネグロス島には広大なサトウキビ畑が広がっていました。案内された村にもサトウキビ農場が広がり、人々は農場で日雇い労働者として生計を立て、お金に困れば地主を頼るという生活を何代にもわたって続けてきたと聞きました。こうした貧しさの連鎖から抜け出すきっかけは、スポンサーシップ・プログラムを通じた支援でした。皆様より支援いただくチャイルドたちには学校教育の機会が、親や地域の人々にはリーダーシップや協同組合について学ぶ機会が提供されました。その村への支援が終了して数年が経った現在、かつて支援いただいた3人の元のチャイルドたちが村の学校で教員として教鞭をとっています。その村の議会(議員定数7人)には、元のチャイルド1人と元のチャイルドの

たかた やすひこ

チャイルド・ファンド・ジャパン 新理事長 **高田 和彦**

(日本基督教団九段教会牧師)



親たち4人が選挙で選ばれています。かつて支援をいただいた子どもたちや人々は、貧しさの連鎖から抜け出し、愛と奉仕の心をもって子どもたちや地域に仕えています。

チャイルド・ファンド・ジャパンの役割は、皆様の貴重な支援を活かして、子どもたちの笑顔を守り、子どもたちの夢の実現をお手伝いすることです。ネグロス島の村と同じように、他の支援地域でも貧しさの連鎖に代わって愛と奉仕の連鎖が起こるように願っています。この愛と奉仕の連鎖の力を信じて、私自身も、微力ながらチャイルド・ファンド・ジャパンの活動に愛をもって仕えてまいります。

### 退任のご挨拶



特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンの理事長を退任するにあたり、ご支援くださる皆様にご挨拶申し上げます。私は、チャイルド・ファンド・ジャパンの前身である社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)の理事長として1989年8月に選任されて以来、皆様の温かいご理解とお力添えにより、その任を果たすことができました。皆様に改めて深く感謝申し上げます。

チャイルド・ファンド・ジャパン 旧理事長 **深町 正信**

チャイルド・ファンド・ジャパンは、今後、高田和彦新理事長のリーダーシップのもと、「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」という目標に向かって着実な前進を遂げるものと確信いたします。また、私も、顧問として、その一翼を担わせていただく所存です。私同様、高田新理事長にご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

終わりに、これまでのご支援とご協力に心から感謝申し上げますとともに、主なる神様の恵みが豊かにありますよう祈り、理事長退任のご挨拶といたします。



# 地域の自立とは？

3つのセンターへの支援が終わります。

チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシップ・プログラムは、地域に根付いた活動を行う「協力センター」と協働して行われています。フィリピンでは全国各地にある17の協力センターとともに活動していますが、そのうち3つのセンターが2014年5月でスポンサーの皆様の支援から離れ、自立します。

支援を受けなくても子どもたちが勉強を続けられること。自分たちの力で生活を切り拓いていくこと。スポンサーシップ・プログラムの最終的な目標は、子どもたちが成長することとともに、地域が支援から自立することです。スポンサーシップ・プログラムが子どもの教育支援に加え、家族の職業訓練や地域の住民組織の強化など、地域の生活を改善するための支援を行っているのはそのためです。

チャイルド・ファンド・ジャパンとの協働が始まると、すべての協力センターは中期計画（原則5カ年）を提出します。この計画は、チャイルドたちの成長、家族の生活改善、自立に向けた住民組織の強化をいかに達成するかという道筋を示しています。そして、中期計画で設定した目標が達成できたかどうか、協力センターとチャイルド・ファンド・ジャパンのフィリピン事務所が一緒に評価して、次の中期計画に繋げます。この中期計画が何度か更新されると、自立＝地域全体が支援から「卒業」することが現実味を増してくるのです。

チャイルドが学校を卒業することだけがスポンサーシップ・プログラムの成果ではありません。地域全体が支援から「卒業」し、自立することも、皆様のご支援によって成し遂げられる大きな成果です。こうして「卒業」していく姿を、今回自立する協力センター10と19の事例とともにご報告します。



## < 2014年5月で自立する協力センター >

	センター10	センター19	センター46
所在地	ルソン島南カマリネス州	ルソン島ケソン州	セブ島セブ州
支援開始年(支援期間)	1983年(31年間)	1988年(26年間)	2002年(12年間)
これまでに支援したチャイルド数	1,275名	1,065名	323名
協同組合の活動概要	ブクルラン多目的協同組合(BMPC)が、雑貨屋経営、貯蓄融資、大豆シリアル生産の3つの収入向上事業を実施	5ヵ村に設立された自助グループが、せっけん販売事業を実施	19のグラミン・グループと3つの住民組織、1つの生計支援グループ(MTBLA)が貯蓄融資事業を実施
協同組合員数	53	121	82(MTBLA)

# 1 チャイルドの成長 (センター10)

スポンサーシップ・プログラムによって最も大きな恩恵を受けるのは、やはりチャイルドたちです。支援によって教育を受け、自分の未来を切り拓いた元チャイルドたちは、自立後の地域を支えます。

「支援によって勉強を続けられただけではなく、内面的に成長することができました。」センター10に在籍し、2002年から2009年までスポンサーシップ・プログラムの支援を受けた元チャイルドのダヤン(21歳)は話します。「週末や夏休みに行われるセンターの活動には毎回参加していました。他のチャイルドたちと思春期の悩みを話し合ったり、環境を守るために植林をしたことで、責任感を学び、自分を大切にできるようになりました。」大学の事務室で働きながら、勤労学生として勉学を続けたダヤン。「ハイスクールを卒業できたのは、7年間ずっと支援して下さったスポンサーのご支援のおかげです。私もいつか、スポンサーさんのように、困っている人を助けられるようになりたいと思っています」と抱負を語ります。



(上)2014年3月に大学(経営学を専攻)を卒業し、現在、銀行の就職面接に臨んでいる元チャイルドのダヤン。



(下)「家族の支えもあって、がんばることができました」家族と一緒に。



(上)漢方による健康ワークショップで学ぶ親たち  
(下)両親のコミュニケーションを向上させ良好な家族関係を築くセミナー

# 2 家族の生活改善 (センター19)

スポンサーシップ・プログラムは、チャイルドの親や家族も支援します。チャイルドがともに暮らす家族の生活状況が改善され、家族全員が安定した生活を送れるようになることもまた、支援の成果のひとつです。

チャイルドや家族の健康を守ることはとても大切ですが、地域には多くの困難もあります。たとえば、親たちが保健・衛生や病気について十分な知識がないこともあります。また、生活している村に病院どころか診療所もないため、病気になった時に離れた町までいかなければならない場合もあります。

そのような状況を改善するため、センター19は、地域保健ワーカーの育成に取り組みました。「地域のために何かしたい!」と希望するチャイルドの親を募り、地域保健ワーカー(ボランティア)の研修を実施しました。研修は、健康について・病気の症状について・外傷などの手当方法・薬草からの生薬作り・病院との連携についてなど、内容は多岐にわたります。

元チャイルドの親、ロズシェルさんも、こうした研修を経て、今は地域保健ワーカーとして活躍しています。ロズシェルさんは、「看護師になるのが子どもの頃からの夢でした。今こうして地域の保健ワーカーとして、家族や地域の子もたちとその家族の健康を見守ることができて幸せです」と話します。

協力センターは、保健分野に限らず、いろいろなテーマ、例えば、栄養、子どもの成長、職業訓練、リーダーシップ、協同組合、起業などの研修機会を親たちに提供して、家族の生活改善を後押ししています。



### 3 住民組織の強化 (センター19)

センターが自立する際に大切なことは、支援がなくなっても、地域の生活が改善されていく仕組みができていくことです。支援が終了した途端、もとの貧しい生活に戻ってしまうという状況では「自立」とは言えません。そのため、スポンサーシップ・プログラムは、生活の改善が継続されることを目指して、様々なプログラムを実施しています。特に、チャイルドの親や地域の人々が主体となって地域の経済活動を活性化できるよう、「住民組織の強化」に力を入れています。

ルソン島ケソン州の5つの村では、センター19が実施した研修を通して、チャイルドの親たちが中心となり自助グループが結成されました。センターのサポートを受けながら自助グループの活動は徐々に拡大し、洗濯用の棒石鹸の共同購入・宅配を行う事業を始めました。大量に仕入れるため値段も安く、しかも宅配されるということで事業は大成功。自助グループの活動は順調に拡大し、今では、食器洗い用の洗剤、シャンプー、歯磨き粉など、取り扱う品物も増えています。

小さな自助グループとして始まった活動が、今では121人が投資者として参加し、56万ペソ(約120万円)を超える資産規模に発展しました。2014年5月には「暮らしを良くするための自助協会」という名称でフィリピン労働雇用省から住民組織登録が認められ、法人格を取得することができました。将来的には50坪の土地を購入し、自分たちの事務所を持つ予定です。また、お米の販売や生薬の製造・販売なども行い、生活の改善と地域経済の活性化の努力を継続します。

住民組織の理事を務めるコラさんは、「以前の私は恥ずかしがり屋で、意見を口に出すこともできませんでした。組織の理事に選ばれるなんて思いもしませんでした。もし娘のピビアンがチャイルドとしてスポンサーさんからの支援を受けていなかったら、私が事業に参加することもなく、今の自分も、この地域の発展もなかったと思います」と言います。

かつては貧しく、消極的だったチャイルドの親たちが、今では積極的に住民組織の事業を支えています。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援が終了した後も、住民組織の活動は継続され、地域経済を支えています。



(上) 共同購入した棒石鹸の配達の準備をする自助グループのメンバーたち



(下) 自助協会の理事に選ばれたコラさん(左)。センターが開催した「リーダーシップ・トレーニング」は特に役に立ったと言います。

new

### 新しい支援地域で活動を始めます! (センター52)

自立して支援から離れる地域もあれば、新しく支援が始まる地域もあります。2014年度、フィリピン南部のミンダナオ島、ダバオ・デル・ノルテ州で新たに支援を開始します。4つの村の100名のチャイルドが、スポンサーシップ・プログラムの支援を受けます。

支援地域の生活水準は低く、約30%の世帯で所得が貧困ラインを下回っています。家屋の多くは竹やニッパ椰子の屋根で作られた1~2部屋だけの家で、電気が届いていない地域もあります。子どもへの教育環境も良くありません。校舎は傷み、教科書などの教材が不足しています。小学校に入学する子どものうち、経済的理由などにより半数程度しか小学校を卒業できません。

またダバオ・デル・ノルテ州は、2012年の台風24号の被害を受けた地域でもあります。特に農地の被害が大きく、生計手段を失った家庭も多くありました。今でも完全に立ち直ったわけではなく、復興に向けた活動が続けられています。

支援地域で協力センター52の運営団体は、ダバオ医科大付属プライマリ・ヘルス・ケア研修所(IPHC: Institute of Primary Health Care)です。IPHCは、ミンダナオ島南部で、かつてセンター20、センター33を運営していた団体です。名前のおり健康・保健の分野から活動を開始しましたが、現在はコミュニティ開発プログラムなど幅広い活動を行っています。2012年の台風によって元支援地域(センター20)が大きな被害を受けた際、チャイルド・ファンド・ジャパンとIPHCは協働して復興支援を行いました。

この地域でもまた、人々が自立できることを目指して、支援活動を行います。



2012年の台風24号で被災した、ミンダナオ島南部の子どもたち

新しい地域の子どもたちをどうぞご支援ください!



# 小さな支援者さんの心温まるご支援

子どもはお小遣いがなければ支援できない? いいえ、そんなことはありません。大人の手を借りながら、創意あふれるアイデアで海のむこうのお友だちのために寄付を集めてくださった小さな支援者さんたちをご紹介します。



## 保育園児たちのチャリティ・ウォーク



スポンサーとしてご支援いただく、神奈川県川崎市にある保育園、ぶどうの実久地園は、フィリピンのチャイルド、アナリンちゃんを支援するために、毎年3月にチャリティ・ウォークを実施しています。卒園間近の年長児たちが参加し、保護者や先生方から寄付を募ります。

園児たちは、お弁当と水筒を持って朝8時半に園を出発、散歩でよく行く公園やお寺の境内、緑化センターなど10数カ所を夕方まで一日かけて歩いて回ります。

チェックポイントでは、寄付を申し出てくれたお父さん、お母さん、先生たちの名前と寄付金額と応援メッセージが書かれた用紙が園児に手渡され、応援メッセージを園児が読みあげます。そしてがんばって歩いた記念に集合写真を撮影して次の場所へと向かいます。

「子どもたちには、人の役に立てる人、社会貢献ができる大人になってほしい」、「今は将来への夢や希望を描きにくい時代だが、自分で何ができるかを考え、行動を起こせるようになることが、夢や希望の実現につながるのです」と園長の堀先生。

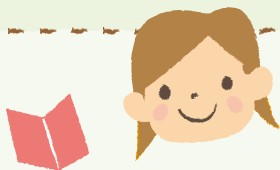
14名の園児たちは、自分たちのがんばりが、アナリンちゃんのためになることを幼い心に刻んだことでしょう。



元気に出発する園児たち



チェックポイントでメッセージを読みあげる



## 手作りカードの販売

神奈川県横浜市にお住まいのスポンサー、土田奈美枝さんがご支援くださるチャイルドが暮らす地域は、昨年11月、フィリピンに上陸した台風30号により大きな被害を受けました。土田さんのお嬢さんは小学校3年生ですが、台風で被災した子どもたち、人々が苦しい生活をしていることに心を痛み、自分でできることで支援をしたいと思い、学校で募金することを考えました。しかしその方法は、単なるお金集めではありません。クラスの友だちに呼びかけて、自分たちで手づくりのクリスマスカードを作り、保護者の方々に買っていただくことにしたのです。出来上がったカードはとても好評で、すぐに売りきれました。そして、フィリピンの被災した子どもたちに幸せなクリスマスがきますように、との願いとともに売り上げ金をご寄付くださいました。



「ず〜っと一緒」「あなたは世界に一人だけ」など素敵なメッセージ入りのカード



カードの値段は買う人が決めます



# 支援プロジェクト 情報 29

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

## 協同組合強化支援プロジェクト

- 協力期間:2013年6月1日~2014年5月31日
- 支援対象:シムコ\*組合員1,153人、その他イロイロ州カバトゥアン町内の18カ村の住民
- 協力団体:カバトゥアン・インマヌエル多目的協同組合 (\*CIMCO:シムコと略)、センター41

【フィリピン】  
▶協同組合強化支援プロジェクト

【ネパール】  
・子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト  
・子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト

本プロジェクトは、協同組合の事務所建設を支援することにより、スポンサーシップ・プログラムの活動を通して育成された協同組合の活動基盤が強化され、将来にわたって地域の生活改善に貢献することを目的として開始しました。

シムコは、2000年10月に設立され、2013年5月現在の会員数は1,153人です。これまでに、貯蓄と融資のサービス、香辛料などの製造販売、ガスコンロの販売を行うほか、植林などの地域活動にも積極的に実施するまでに成長しました。借りている現在の事務所はすでに手狭なうえ、さらに生薬作りや穀物の協同購入・販売などの事業拡大が期待される中、自前の事務所を持つために支援要請がありました。シムコは組織体制が確立していること、高い事務能力をもつスタッフがいること、などの条件をクリアしており、チャイルド・ファンド・ジャパンはシムコが土地を購入したことを確認して、支援を決定しました。

当初の計画では、昨年秋に竣工予定でしたが、度重なる悪天候で工期が遅れたところに11月の台風30号が襲来しました。建設中の事務所は被害を免れましたが、建設資材の高騰や作業員不足で工事は中断を余儀なくされました。しかし、皆様のご支援により、資材の値上げに対応して追加資金を支援することができ、工事が再開されました。



正面から見た組合事務所(4月7日現在)建設風景



生薬などの製造場所となる部屋

## 緊急支援 フィリピン台風30号「ハイエン」緊急・復興支援プロジェクト

- 協力期間:2013年11月11日~2015年3月31日
- 支援対象:台風30号(ハイエン)で被災したピコールおよびピサヤ地方(バナイ島、セブ島、レイテ島、サマル島)の15地域の約12,000世帯(約60,000人)
- 協力団体:センター40、41、42、レリジャス・シスターズ・オブ・マーシー(RSM:元センター6)、チャイルド・ファンド・アライアンス

史上最大の台風30号(ハイエン)による被害発生から半年がたちました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、被災した支援地域および元支援地域で緊急支援を実施するとともに、チャイルド・ファンド・アライアンスとの協働事業として広範な地域を対象とした緊急・復興支援活動を進めています。

当初3ヵ月は既存の支援地域で、1,196世帯を対象に緊急支援物資の配布や家屋修復・生計再建支援を行いました。元支援地域のレイテ島タナワンでは、元チャイルドを含む376世帯に家屋修復や生活再建のための支援と、学校の教室備品や書籍購入、タクロバンでは図書室再建費を支援しました。アライアンスとの協働事業では、15の地域にチャイルド・センタード・スペース(CCS)を設置し、緊急支援物資の配布や子どもたちへのこころのケアを中心に子どもたちを守る活動を進めました。

2014年3月以降は、復興のスローガンとなっている「ビルド・バック・ベター\*」に沿って、学校に通っていない乳幼児と家族への支援や、子どもの保護を含む災害に強いコミュニティ作りの支援、防災体制を強化するための青年の就業支援を行います。



学用品を受け取った子どもたちとフィリピン事務所のスタッフ(右)。(レイテ島タナワン:元支援地域)

\*Build Back Better:被災地を災害以前の状態で復旧するだけでなく、持続可能なコミュニティを再生すること。

## ■■■■■ 台風30号緊急募金と冬募金キャンペーンのご報告 ■■■■■

皆様にはフィリピン台風30号「ハイエン」緊急・復興支援プロジェクトの開始直後から大きなご支援をいただき、これまでに1,717口、31,395,414円(3月31日現在)のご寄付がありました。心よりお礼申し上げます。これからもこの事業への支援活動を続けていきます。今後とも温かく見守ってくださいませよう、お願いいたします。

また、2014年1月より、ネパールで実施する「子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト」へのご支援をお願いしていました。その結果、426口、3,749,689円(3月31日現在)のご寄付をいただきました。ネパールの子どもたちが希望ある未来を手に入れられるよう、大切に活用いたします。

皆様からの温かいご支援に重ねてお礼申し上げます。



## チャリティ・コンサートを開催しませんか？

### ～音楽で広がる国際協力の輪～

「音楽を通じて貧しい子どもたちを支援したい」と、チャリティ・コンサートのお申し出をいただくことがあります。

4月6日、東京都の小金井市シビックセンターで鈴木範之さん、青野将さん、河本咲子さんの3名がピアノ・ジョイント・リサイタルを開催され、リサイタルの収益の一部がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付されました。また、4月12日、埼玉県川越市では伊東明子さんが「スプリング・チャリティ・コンサート」を主催され、プログラムの最後にご寄付が贈呈されました。この2つのチャリティ・コンサートでいただいたご寄付は、フィリピンの子どもたちを支えるために活用されます。

チャリティ・コンサートは、観客の皆様が音楽を楽しみながら、子どもたちの未来を支えることができる素敵な支援方法です。ピアニストの鈴木範之さんは、コンサートを行った理由について、次のように話してくれました。「1つは音楽を通して貧困で苦しんでいる人々を支援ができればという思いから、もう1つは、そうした思いを実現してくれるチャイルド・ファンド・ジャパンのような団体があるということをお客様や音楽仲間にも知っていただくためです。」ぜひ皆様もチャリティ・コンサートを開催してみませんか？

<お問い合わせ> 03-3399-8123 inquiry@childfund.or.jp



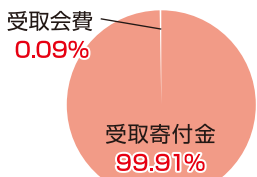
上/ジョイント・リサイタル行ったピアニストの3名。左から、鈴木範之さん、青野将さん、河本咲子さん  
下/ピアノを演奏される伊東明子さん(左)と独唱される安藤峰子さん(右)

## インフォメーション コーナー

お知らせ

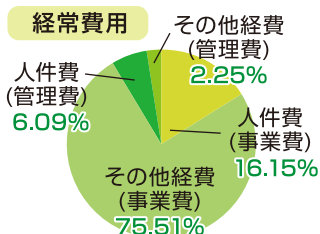
### 2014年度予算の概要

#### 経常収益



受取会費	228,000円
受取寄付金	260,000,000円
助成金等	0円
事業収益	0円
その他収益	0円
<b>経常収益計</b>	<b>260,228,000円</b>

#### 経常費用



事業費	
●人件費	47,343,682円
●その他経費	221,320,702円
●事業費計	268,664,384円
管理費	
●人件費	17,864,288円
●その他経費	6,587,328円
管理費計	24,451,616円
<b>経常費用計</b>	<b>293,116,000円</b>

- \*スポンサーシップ・プログラムへの支援金や各種支援事業への寄付金は「受取寄付金」に含まれています。
- \*「人件費(事業費)」には東京事務所事業に携わるスタッフ、ネパール事務所、連絡調整事務所のスタッフの人件費も含まれています。
- \*「その他の経費(事業費)」にはスポンサーシップ・プログラムによる支援事業費およびその他の開発支援事業や広報事業に係る経費が含まれています。
- \*「人件費(管理費)」は、東京事務所管理業務に携わるスタッフの人件費です。
- \*「その他の経費(管理費)」は、東京事務所の事務管理費です。
- \*NPO会計基準に基づく会計報告となっています。

お願い

### 機関紙等のウェブ購読のお願い

チャイルド・ファンド・ジャパンは、活動のご報告やお知らせを掲載したメールマガジンを毎月配信しています。メールアドレスを登録して、ぜひご購読ください!

また、より多くのご寄付を子どもたちへの支援に活用するため、機関紙などのウェブ購読をお願いしています。機関紙「SMILES」と年次報告書の郵送での受け取りを停止し、パソコンなどでPDFファイルで購読して下さるよう、ご協力を呼びかけています。機関紙などがダウンロードできるホームページのアドレス(URL)はメールマガジン、チャイルド・ファンド・ジャパン ニュースでご案内いたします。機関紙などの郵送での受け取りを停止し、ウェブ購読にご協力くださる方は、件名を「ウェブ購読」とし、本文に支援者番号とお名前を記入のうえ、[news@childfund.or.jp](mailto:news@childfund.or.jp)宛てにメールをお送りください。

また、郵送での受け取りを継続したまま、メールマガジンの購読をご希望される方は、件名を「配信希望」とし、本文に支援者番号を記入のうえ、[news@childfund.or.jp](mailto:news@childfund.or.jp)宛てにメールをお送りください。ご理解・ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

お詫び

### 誤表記のお詫び

「SMILES」34号の下記の箇所に誤植があります。お詫び申し上げますとともに、以下のように訂正いたします。

#### P8 インフォメーションコーナー

「書き損じた年賀状が子どもたちの学校設備に変わります!」

10行目 誤) 東京都杉並区 善福寺2-7-15 ➡ 正) 東京都杉並区 善福寺2-17-5

ChildFund Japan

### Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

#### ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

#### ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

### チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ <チャイルド・ファンドだより SMILES> 2014年6月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン  
理事長/高田和彦 事務局長/小林毅  
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730  
E-mail: childfund@childfund.or.jp  
URL: http://www.childfund.or.jp/

(デザイン) モステデザイン研究所 (印刷) 有限会社東西印刷

